

[資 料]

Sherlock Holmes の Baritsu

——柔術の一側面史として——

北 博 正*

(平成元年 5 月 15 日受付, 平成元年 7 月 7 日受理)

Baritsu of Sherlock Holmes

—A Side View of the History of Jūjutsu or Jūdō—

Hiromasa KITA*

Sherlock Holmes, a world famous detective, created by Sir Arthur Conan Doyle, had a narrow escape from the death from a falling into the bassin of Reichenbach Fall in the Alps, as he had “some knowledge of *baritsu*, or the Japanese system of wrestling.”

The word *baritsu* was phonetically analyzed by the present author and was concluded that the origin of this word is *wajutsu*, a school of ancient Jūjutsu group, founded by Terada Heizaemon Sadayasu about 3 centuries ago. The word *baritsu* was brought back by Europeans to their home countries.

In the “Encyclopaedia Sherlockiana”, compiled and edited by Jack Tracy, he explains that the word *baritsu* came from *bartitsu*, a new art of self defence reported by E. W. Barton-Wright in Pearson's Magazine, London, March and April 1899, but the time of publication of this art is after the word *baritsu* was known by Doyle.

As for the Kōdōkan-Jūdō, organized by Jigorō Kanō, it was little known by Europeans at that time, so there may be no relation with *baritsu*.

1. はじめに

Sir Arthur Conan Doyle, M. D. (1859~1930) によって創り出された名探偵 Sherlock Holmes (1854~1957**) の活躍は Doyle の最初の Holmes もの The Adventure of Sherlock Holmes¹⁾ が発表されて以来、今日に至るまで、数多くのファンを魅了してきた。Sherlockian Club なる国際的研究団体も結成され、数多くの研究が発表されるに及んでいる。たとえば上記の Holmes の生年、没年(※※印)の如きは Gould, W. S.²⁾ が、Doyle 及びその作品を丹念に研究してまとめた Holmes 伝によるものであるが、全く架空の人物がこれほど詳細に研究されるというのは、類を見ないことであろう。

私も著者 Doyle が医師であること、Holmes の友人で

協力者、かつ彼の活躍の記録者である John H. Watson (1852~1929※※) も医師であることから、多年種々の研究を続けて来ているが、今回は Holmes が、日本の伝統的格技の心得があり、そのため九死に一生を得た事件について考察を加えようとするものである。ただし、このことは日本人でなければ解明できないと考えるからである。

2. Baritsu の登場

Doyle は数多くの Holmes ものを The Strand Magazine³⁾ という雑誌に、次々と発表して来たが、ついに疲れはて、執筆を打ち切るため、Holmes を死なせてしまうことを考えた。アルプス山中の Reichenbach の滝の断崖で、Holmes の宿敵で世界一の悪の天才といわれてい

* 体力学研究室

** は推定、以下同

た Prof. Moriarty (~1891※※) と格闘させ、二人とも滝壺に落としてしまうのであるが、そこに居あわせ Dr. Watson がこれを確認し記録するというシナリオであった⁴⁾。

ところが Holmes の愛読者たちは Doyle とその出版社に対して執筆継続を強く要望した。出版社に抗議の手紙が殺到したのである。そのため、Doyle も放置できなくなり、ついに The Return of Sherlock Holmes の初章, Adventure of the Empty House⁵⁾ (空屋事件) において Holmes を生還させることとなった。これは 1891 年※※ のことで、Holmes が姿を消してから 3 年後 (1894 年) のことである。

Doyle は Holmes をあまりあざやかに消してしまったので、彼を再登場させるのには苦労したが、彼の生還はつぎのように果たされている。すなわち友人 Holmes を失った Watson は、ある日、ロンドンの街路を歩いていると、12 冊以上もの古本をかかえた小柄な老人が、彼にぶつかった。彼は書物が路上に散乱したので、拾ってやってから、帰宅した。まもなく、その老人が彼を訪ねて来て、無礼をわび、持参した古本をあそこの書架に並べると、よく調和するという (立派な装釘の書物を部屋の装飾として並べるとは西洋にはまだ残っている習慣である) ので、老人の指さす方に眼をみやった Watson が視線をもとに戻すと、何と Holmes がそこに立っている。Watson はおどろいて、どうして生きかえったかと尋ねると、Holmes は小柄な老人に変装するのは大へん苦しかったといい、ついで次のように答える。

“.....I have some knowledge, however, of baritsu, or the Japanese system of wrestling, which has more than once useful to me.....”⁶⁾ (____引用者)

この小論は baritsu とは何かを解明しようとするものである。

3. Baritsu とは何か

まず掲掲の Holmes の話しを、日本の訳者たちは、どのように訳しているかを紹介する。

最も忠実に訳しているのは、阿部知二⁷⁾ で “.....けれどもぼくは、バリツすなわち日本の格闘術の心得がいささかあって (バリツというのはドイルが武術というのを聞き誤ったものであろう。それはまた柔術を意味するつもりだったかもしれぬ。——訳者註)、このおかげで大いに助かったことが一度や二度ではない。……” と訳している。

このバリツを延原謙はジュウジツ (新潮文庫)、菊池

武一も同様ジュウジツ (岩波文庫)、鈴木幸夫は柔道 (角川文庫)、鮎川信夫はバリツ (武術を Doyle はきき誤ったものと思われる——訳者註) (講談社文庫) としている。

即ち訳者等は大体において、バリツを柔術、柔道乃至はこれに類似の日本の格技を考えているが、鮎川訳の武術となると、武芸十八般となり、範囲が広くなりすぎるように思う。

ところで外国では、どうみているだろうか？ 米国の Tracy, Jack⁸⁾ はその編著 Encyclopaedia Sherlockiana において “正しくは Bartitsu, 1899 年に E. W. Barton-Wright によって、日本から英国に紹介された護身術で、彼の名をとって命名された”⁹⁾ としている。つまり baritsu は bartitsu から来たというのである。

4. Baritsu の音声からみた検討

一般に Baritsu という語を ba と ritsu に分けて検討しているようである。私もこれには同意見である。そこで、この語を二つに分かちて、以下「音声」から検討を加えてみる。

1) [ba] は [wa] に由来するので、[wa]→[uwa]→[va]→[ba] となる。たとえば、ドイツ語の Wasser は強く発音すれば [vasər], 弱く発音すれば [wasər] となる。即ち [va]↔[wa] である。つぎに [va] と [ba] は、われわれの教わった英語では完全に別の発音となっているが、フランス語の février, ドイツ語の Februar, 英語の February というように、語原が同じでも、[v] と [b] の変換がみられ、スペイン語に至っては、v は [b] と発音するように、両者の発音の相違は決定的なものではないといえる。ともあれ [ba] は [wa] に由来し、〈和〉の字をあてることができる。

2) [ritsu]: 片言をしゃべるようになった幼児がリンゴのことを [dʒingo] と発音したり、かつて東京の下町人が、人力車のことを [rinriki] といったり、私の患者で手術を [ʃiritsu] と発音しているのを聞いたことがあるが、文字を知らず、耳からのみ入った言葉の発音は、このように [r] と [dʒ] の混同がおこる。これは日本の古い外来語によく見られるところである。

したがって [ritsu] は [dʒutsu]→[dʒitsu]→[ritsu] という音声の変化が起こったことによる結果と考えられ、[ritsu] は〈術〉をさすといえる。

以上の 1) と 2) から、[baritsu] を〈和術〉と解することができる。

次の問題は、和術というものが存在したかどうかということである。

5. 和術とはなにか

昔、柔術に相当する格技、乃至は護身術を〈やわら〉と称したが、これを漢字化する際、〈柔〉または〈和〉があてられ、柔術と和術になったといわれる^{10), 11)}。

〈和術〉という名称はあまり聞きなれない言葉なので、これを追及することにする。丸山¹²⁾によれば、明治の中葉までは〈柔術〉と称したという。外国の辞典でも、第二次世界大戦前のものでは jūjitsu は出ていても jūdō はみられず、これは戦後になって登場したものといえる。(著者註) 彼によると、それ以前は〈やわら〉に〈和〉または〈柔〉をあて、〈和〉の方が平和に通じ、柔道の本来の性格にふさわしいと考えられた。また、綿谷¹³⁾は江戸初期におこった和術の系譜を、直信流柔道に関連して、つぎのように記載している。

福野七郎左衛門正勝(良移心当流)	}	寺田八左衛門満英 (起倒流, 直信流柔道)
寺田平左衛門定安(貞心流和術)		
茨木専斎俊房(起倒流乱)		

すなわち寺田平左衛門定安(若狭の人)は、軍陣組打貞心流和術の開祖で、この和術は起倒流に吸収されてしまいが、〈和術〉なる言葉は民間では依然として流布されており、これを耳からきいた外国人が baritsu と綴ったとしても、無理からぬところである。

なお、寺田八左衛門満英は、直信流柔道を樹ており、柔道なる名称は、明治に入って、嘉納治五郎によって命名されたと、多くの人は信じているが、これよりもはるか昔に〈柔道〉なる名称が存在したことを付記しておく。もちろんこのことによって嘉納の功績が減ずることは少しもない。

6. Barton-Wright の Bartitsu

前記 Tracy, J.⁸⁾ が〈baritsu〉は〈bartitsu〉から来ていると称し、Barton-Wright の創始したものとの説の材料は、Pearson's Magazine (London) の 1899 年の 3 月号 (pp. 268~275) および 4 月号 (pp. 402~410) に掲載の“The New Art of Self Defence”という記事によるものである。この記事で E. W. Barton-Wright なる人物は、つぎのように述べている。

すなわち 3 月号では：

1) 暴漢におそわれたとき、持っているオーバーコートに敵に投げかけ、眼をみえなくして、片足をつかんで倒し、自分の腕を相手の膝の裏にはさんで、敵の脚をおしまげて押えこむ方法

2) 暴漢が室内に乱入したとき、相手の手首をつか

んで動けなくして、扉の外に追い出す方法

3) 相手がなぐりかかって来たときの受け方

4) 後からかかって来て、腕を固定されたときの投げ方

5) ベルトをつかまれたとき、またはコートのポケットをつかもうとしたときの投げ方

6) コートの襟をつかまれたときの撃退法

さらに 4 月号では：

1) 厄介な人物を室外に押し出す法

2) 後からつかまえられたとき、力を使わずに投げる方法

3) 倒した敵を動けなくする方法

4) 後からだきつかれ、腕を固定された場合の投げ方

5) 両腕をつかまえられたときの投げ方

6) コートの襟をつかまえられたときの外し方と投げ方

7) コートをつかまえられ、ふりまわされそうになったときの投げ方

8) 右拳で顔面をなぐろうとしたときの防ぎ方

9) 後からコートの襟をつかまえられたときの逃げ方

10) 右腕をつかまえられたときの投げ方

以上の方法をそれぞれ、数枚の組写真を入れて説明しているが、まず当時、カメラのレンズは暗く、感光材料も性能が低く、この写真撮影は相当困難だったものと想像させる。このため、背景に城壁の石垣がみえ、石造の西洋館の一部がみえることからわかるように昼間、屋外で写しており、前面には大きなソテツが植えられているので、それほど寒くない城下町と想像されるが、場所の記載はない。

Barton-Wright は柔道着のようなものを着用し、相手の日本人は小柄な老人で、口髭、顎髭をはやし、稽古着用の上衣に長い袴をはいている。彼は高名な日本のレスラーとのみ記され、誰だかわからない。

Tracy は彼の Encyclopaedia に 4 月号の No. 6 の敵に襟をつかまえられたときの外し方と投げ方の組写真を掲載している(写真 1)。

Barton-Wright がいかなる人物であるか、Tracy¹⁴⁾によれば Pearson's Magazine に 2 回にわたって登場している以外は、多くの文献目録や伝記のカatalog、さらに London Times の索引まで調べたが、全くどこにも発見できなかったと、私の照会に対して答えている。

以上により、何もわざわざ、bartitsu が baritsu に

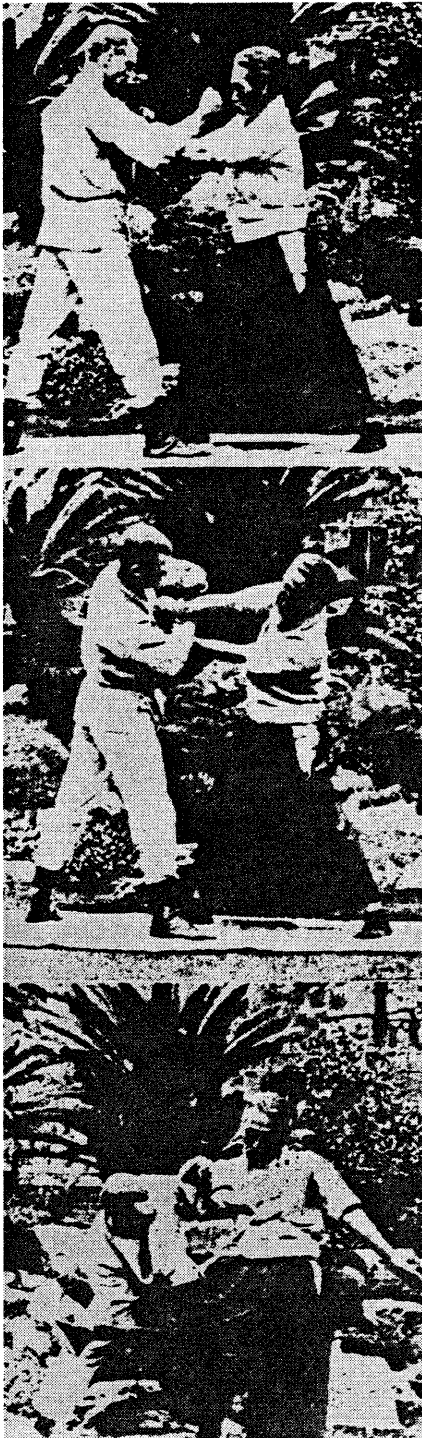


写真1

なつたと説明しなくても、baritsu は和術と結論してよろしいと信ずる。

時間的にいっても、Reichenbach の事件は Barton-Wright の記事より、8年前のできごとであつて、この点からも Doyle は baritsu のことを全く知らなかつたといえる。

7. Baritsu と柔道

Doyle は Holmes を死なせずにすまし、その理由として、Holmes に和術の心得があつたから、といわせているが、Doyle はこの種の日本の格技のことを知つていたであらうか。Doyle の全作品を調べても、日本に関する事項は、baritsu を入れて、計3件しかなく、しかも baritsu に関する前記の会話が最も字数が多いくらいである。

また、Doyle の最も権威のある伝記作者である Carr, J. Dickinson¹⁵⁾ でさえ、日本ないし baritsu と Doyle とのかかわりには触れていない。つまり Doyle はこれらのことをほとんど知らなかつたと思われる。

ただ、日本には小唄が巨漢を投げとばす、baritsu という術があり、むしろ“神秘的なもの”として、耳にしていた程度で、これを Holmes を生きかえらすのに利用したにすぎないと思われる。

さて、つぎに問題になるのは、baritsu と講道館柔道との関係である。

嘉納治五郎 (1860~1938) が講道館柔道をとなえたのは 1882 年のことで、幕末から明治初期には種々の流派が存在したが、維新後は大いに衰退し、町道場がわずかにあつたほかは、柔術使いも骨接ぎをやつたり、見世物に出たり、転業したりした。しかし外国人の眼にとまることも多く、〈柔術〉として母国に紹介された。

講道館柔道の海外への紹介は、上二番町時代 (1883~1885) に米国人イーストレーキ (Frank Warrington Eastlake (1858~1905)) が見学に来たのが、初めてらしい。また、1875 年には、米国前大統領 Grant (Ulysses Simpson Grant (1822~1885)) 將軍らが供覧試合を見ている。

嘉納の第1回渡欧 (1889~1891) の際にどの程度に柔道を外国で紹介したか、伝記^{16), 17)} には少しも触れていない。

彼の熊本の高等中学校時代には、同僚であつた小泉八雲 (Lafcadio Hearn (1850~1904)) は柔道に興味を持ち、その著書“Out of the East”に柔道を紹介しているという。

19 世紀末までには、1897 年海軍士官湯浅竹次郎がメルボルンで供覧したほか、1899 年、米国の Yale 大学教授が参観したことが記録されており、本格的に柔道が海外に進出するようになったのは、20 世紀になってからで、とくに日露戦争後のことであった。それまでは、外国人にはあまり知られていなかったといえる。したがって Doyle も当然、大した知識はなかったであろう。

したがって講道館柔道は年代的にいっても、baritsu とは関係なかったと思う。

おわりに

Sir Arthur Conan Doyle が Sherlock Holmes を Reichenbach の滝の断崖で九死に一生を得させるために baritsu なる日本の伝統的格技を用いた、との記載から baritsu が古くから存在する〈やわら〉の一流派和術であることを証明し、Barton-Wright の bartitsu が baritsu になったという Tracy, J. の説は誤りであること、また講道館柔道はこの場合、無関係であることを述べた。

柔術（柔道）の初期の海外普及の歴史は史料に乏しいので、本小論は不明な点の多い 19 世紀時代の柔術（柔道）史の空白を少々埋めて、側面史に若干の材料を提供したものと信ずる。

終りに、Barton-Wright の Bartitsu の記事の掲載された Pearson's Magazine のコピーを送付された Mr. Jack Tracy に深謝する。

文 献

- 1) The Strand Magazine Vols II and III, July 1891-June 1892, pp. 171.
- 2) Baring-Gould, W.S.: Sherlock Holmes of Baler Street, A Life of the world's First Consulting Detective, Rupport Hart-Davis, Lon-

don 1962. (小林 司, 東山あかね訳: シャーロック・ホームズ, ガス灯に浮かぶその生涯 講談社, 1977).

- 3) The Sherlock Holmes, Illustrated Omnibus, A facsimile edition of all Arthur Conan Doyle's Sherlock Holmes stories illustrated by Sidney Paget as they originally appeared in The Strand Magazine, John Murray (Publishers), London, 1978.
- 4) The Adventures of Sherlock Holmes XXIV The Adventure of the Final Problem pp. 146-156, in-The Memoirs of Sherlock Holmes, The Strand Magazine, Vols IV, V and VI, Dec. 1892.
- 5) The Return of Sherlock Holmes, The Strand Magazine Vols. XXV, XXVIII Oct. 1903-Dec. 1904, pp. 1-193.
- 6) The Adventure of the Empty House p. 5, in 5).
- 7) 阿部知二: 空家事件 (シャーロック・ホームズの生還, シャーロック・ホームズ全集第 3 巻) パシフィカ, 1977, p. 14.
- 8) Tracy, J. (compl. and ed.): The Encyclopaedia Sherlockiana, or A Universal Dictionary of the State of Knowledge of Sherlock Holmes and his Biographer John H. Watson, M. D., Doubleday & Co. Ltd., New York 1977, pp. 411.
- 9) p. 25 in 8).
- 10) 日本大辞典刊行会編: 日本国語大辞典 (第 20 巻) 小学館 1976, p. 645.
- 11) 新修体育大辞典, 不昧堂, 1976.
- 12) 丸山三造: 世界柔道史, 恒友社, 1967.
- 13) 綿谷 雪, 山田忠夫: 増補改訂 武芸流派大辞典 東京コピー出版部 1973, p. 335, 590.
- 14) Tracy, J.: 私信, 1979.
- 15) Carr, J. Dickinson: The Life of Sir Arthur Conan Doyle, John Murray (Publishers) London, 1969.
- 16) 横山健堂: 嘉納先生伝, 講道館 1941.
- 17) 加藤仁平: 嘉納治五郎 (新体育講座 第 35) 逍遙書院, 1970.